



(株)美広社 代表取締役  
なかう まさかつ  
中右 政勝 さん

加古川市加古川町中津895番地の1  
TEL: 079-424-3949

1954年生まれ この年の出来事

○自衛隊法に基づき、陸上・海上・航空自衛隊が発足 ○焼津港のマグロ漁船「第五福竜丸」がビキニ環礁での米の水爆実験による放射性降下物を浴び被ばく ○力道山などプロレスブーム ○ジョー・ディマジオ、マリリン・モンロー夫妻が来日

映画館の手書き看板職人として腕を磨いた父が昭和38年に独立・開業し、今年で63年になります。私はサラリーマン（加古川商工会議所職員）を1年で辞め当社に入社し約20年修業の後、平成13年に父が亡くなり社長を引継ぎ、平成20年に法人化しました。コンピュータを導入して製作スピードが格段に上がり、お客様の要望に応えやすくなりました。今ではLED看板が増え、手書き看板はめっきり少なくなりました。東播磨2市2町の範囲がほとんどですが、HPを見ての問い合わせも増え、東は大阪から西は赤穂くらいまでご要望がありましたら対応させていただいています。

一昨年に黄綬褒章を授章、皇居にて天皇陛下より拝受賜わり、昨年3月にはプラザホテルで受章記念祝賀会を開催させていただいたことは、生涯の思い出となりました。創業当時よりお世話になっている地元商店街や企業の皆様のおかげであり感謝申し上げます。この受章を糧として、時代の変化に合わせて新しい技術を積極的に取り入れ、スキルアップに努めながら信頼を高め、景観に合った看板を作っていきたいです。また、近年パソコン全盛の中、手書きレタリングに興味を持ち始めた若者達に県立ものづくり大学で実技指導を行ってきました。今後も技術伝承のため微力ながらお役に立ちたいとも考えています。

娘が後を継ぐと言ってくれていることもあり、少し任せてみて、72歳を迎える2026年は、旅行したり映画を見たりと夫婦の時間をゆっくり過ごしてみたいですね（この先5～6年は無理でしょうが・・・）。父が映画館の看板を描いている時、出入りしていた昔の映画を見直したい。でもきっと、手書きの字幕やエンドロールが気になってそこばかり見てしまったり、旅先でも、古い看板の方が気になってしまうかも知れません。

これからも社員一同、街の景観づくりの一端を担っている責任を胸に、精進を続けてまいります。



黒崎水道建設(株) 代表取締役  
くろさき しげこ  
黒崎 重子 さん

加古川市加古川町木村118-3  
TEL: 079-423-6711

1942年生まれ この年の出来事

○ミッドウェー海戦で主力空母4隻を喪失、壊滅的な敗北を喫し、以後、太平洋の島々での戦いの主導権を全てアメリカに握られる ○戦争が本格化、食料、燃料など生活必需品は配給制となり、国民は不自由な生活を余儀なくされましたが「欲しがりません勝つまでは」をスローガンに耐え忍ぶ

初代黒崎義一が昭和7年に創業して94年を迎えます。加古川市の水道指定工事業者一覧では指定番号1番の一番古い業者です。3代目社長が平成17年5月に亡くなり、急遽私が引継ぐことになりましたが、事務は手伝っていたものの工事関係は全く経験が無く戸惑うばかり、皆さんの協力のおかげで乗り切ることが出来ました。今では長女が設計や現場管理で活躍してくれて、後継者としても頼りにしています。

上下水道工事や空調設備工事は屋外での作業がほとんど、毎年酷くなる夏の暑さ対策には苦勞しています。ファン付の空調服の効果はあるそうですが、高所作業時に安全帯を2本装着する際などは作業性が悪く空調服を脱いでしまうこともあります。私は車を運転して工事現場へ冷たい飲み物を届けるくらいしか出来ません。他にも、姫路市から明石市まで指定業者更新の手続きにまわったり、会社の植木の手入れをしたり、サポート役に徹しています。

これからも毎日元気に会社に出勤して仕事を続けることが目標です。仕事をしていると自分の時間ありませんが、それよりも仕事出来る喜びを感じながら、毎日を平穩に過ごせることが幸せです。主人は友人とゴルフを楽しんでいますが、私は特に趣味も無いんです。阪神タイガースのナイター試合がある日はテレビ観戦が楽しみの一つですね。特に大山選手と大竹投手に熱い声援を送っています。毎年冬には社員や下請けの人達とバスに乗ってカニを食べに行ったり、夏には庭で焼肉をしたり皆で仲良く楽しんでいます。辞める人も無く、70歳を過ぎても本人が希望すれば働いてもらっており、今のところ人手も足りていてありがたいことです。

来年2027年は創立95周年になります。90周年はコロナ禍で何も出来ませんでした次は何か企画したいですね。社員や下請けをはじめ関係者の皆様に心から感謝をお伝えしたいです。

## 2026年は「午年」

干支（えと）は、十干（じっかん）と十二支（じゅうにし）の組合せで計60通りあります。これを六十干支（ろくじっかんし）と呼び、60年で干支が一回りすることから、60歳になることを「還暦」と呼びます。

【十干（じっかん）】甲（きのえ）、乙（きのと）、丙（ひのえ）、丁（ひのと）、戊（つちのえ）、己（つちのと）、庚（かのえ）、辛（かのと）、壬（みずのえ）、癸（みずのと）

【十二支（じゅうにし）】子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）

2026年は、丙午（ひのえうま）にあたります。「丙午の年の生まれの女性は気性が激しく、夫の命を縮める」という迷信があり、これは、江戸時代初期の「丙午の年には火災が多い」との迷信が、放火の罪で火あぶりにされた「八百やお七」が丙午生まれだったとされたことから広まりました。この迷信は長く残り、前回1966年の丙午では生み控えにより、前年に比べ出生率が25%も下がりました。

【丙】 十干の3番目。火の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表す。

【午】 十二支の7番目。活発で行動力があり、情熱や決断力を象徴する。

【丙午】「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年といわれています。

### 〈ウマにまつわることわざや慣用句〉

・人間万事塞翁が馬：人生における幸不幸は予測できないもので、何が吉と出るか凶と出るかわからないという意味

・馬脚を露す：正体を表す。化けの皮が剥がれる。隠されていた本性が露になるといった意味

・小馬の朝駆け：初めに力を入れすぎて早く疲れてしまうことのたとえ

・竜馬の躰（つまづ）き：どんなに優れた能力を持つ人でも、時には失敗してしまうこともあるという意味

など

